

# しょう か わ の 川 流 域 の 環 境 整 備 と 保 全 に 取 り 組 む

池河内湿原を源に、上流部で奥麻生川、五位川と合流し、  
下流部では黒河川、木の芽川と合流して、敦賀湾へ流れ込む筈の川。

水質は環境基準のA類型に指定された、きれいな川だ。

「敦賀河川を守る会」は、そんな河川環境の保全を図るために活動している。



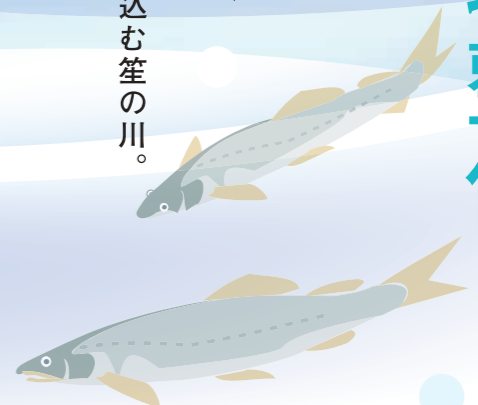
「敦賀河川を守る会」結成8周年を迎え、活動の成果も見えてきた。写真は令和1年度の河川清掃の計画・打ち合わせに集まった会員の皆さん

## 河川環境の悪化が進み 改善に向け組織を発足

筈の川は延長18・3キロと小規模の二級河川である。内水面漁業（河川・池・沼の淡水における漁業）は、昭和24年に「敦賀河川漁業協同組合」が結成された。その漁業権の設定範囲は筈の川水系全域におよぶ。対称魚種はアユ、イワナ、ヤマメ。毎年6月の公示日から11月30日はアユの解禁日として、県内外から多くの釣り人が訪れている。

「例年5月に稚アユの放流を行っています。筈の川の水はきれいなので、そこで育った藻類を食するアユは香りが良く、味もおいしくなります。解禁時には体長15センチほどとなり、塩焼きがおすすめですよ」と敦賀河川漁協の組合長、岸本勸さんは話す。

しかし近年、アユ釣り人口は減少傾向にある。川で遊ぶ子どもたちの姿もほとんど見かけない。河川利用者の減少によって、河川敷には草木が繁茂し、ごみの不法投棄も増えてきた。同漁協では自主



的に草刈りやごみの回収などを行い、環境の保全に努めてきたものの、組合員の減少と高齢化、さらには予算面からも活動の持続が難しくなった。このまま筈の川が荒れていくのをくい止めたいと、水産庁の交付金事業「水産多面的機能発揮対策支援委託事業」の支援を受ける。

平成25年、漁協組合員を中心に、地元小学校の校長、中郷地区区長会代表、中郷地区子供会指導者代表など市民の参加も得て「敦賀河川を守る会」を設立。岸本組合長が守る会の代表を務め、交付金を活用しながら、河川環境の整備や管理に取り組んでいる。

## 増殖する草木除去など 河川の清掃活動を実施

同会では例年5月から6月にかけて、筈の川流域の5箇所清掃活動を実施している。草刈りやごみの回収などが主な作業内容だ。岸本さんによれば、回収ごみではペットボトルが目立つそうで、川にごみを捨てないよう呼びかける。交付金の助成には活動状況の報告が求められており、6カ月にわたり毎月1回、清掃箇所のモニタリング（清掃後の経過確認として写真も撮影）を行っている。また、生物モニタリングとして、水生生物の調査も行う。

最近の水生生物調査で、カゲロウ類の幼虫やトビケラ類の幼虫が多く確認されるなど、水質の維持

が活動の成果として見られた。ごみの量も以前よりは減ってきたという。

河川の清掃活動の一環として、河床の掘り起こしもしている。「上流部の山の手入れがされていないことで、土砂が川に流れ出て、アユが食べる藻類が付く河床の石が埋もれてしまいます。そこで砂が堆積して固くなった河床を、重機を導入し、掘り起こす耕耘作業をやっています。しかし1年も経つと元に戻ってしまうため、抜本的な改善策が必要で、課題ですね」と岸本さん。

アユは下流域の小石底の浅瀬で産卵する。筈の川と木の芽川の合流点付近が適した場所にあるが、河床が固くなっている

と産卵できない。産卵場所の整備としても、河床耕耘は大切な作業となる。

## 小学校への出前教室で 河川への関心を高める

河川の環境整備と並行して、子どもたちへの教育と啓発にも取り組んできた。

稚アユ放流には毎年、市立中郷小学校と市立敦賀南小学校の児童たちが参加。9月になる

と、その放流体験をした2校へ出向き、成長したアユを見せながら、アユの習性や河川の環境などについて説明する「出前教室」を行う。



敦賀河川を守る会の代表と敦賀河川漁協の組合長を兼務する岸本勸さん

Information  
敦賀河川を守る会  
☎0770-25-8366  
(敦賀河川漁業協同組合)  
敦賀市三島町1-11-1

8月には市内の幼児・小学生と保護者を対象に「さかな観察会」を開く。筈の川に人工池を設けてアユ500匹を放し、掴み取りを楽しんでもらい、取ったアユは塩焼きにして味わってもらおう。参加者は年々増えてきて、200人を超える。

「川遊びや釣りをした経験がない親世代が増えていて、それが子どもたちに影響しているのではありません。釣りに触れたり、アユを手掴みしたりするのが初めて、という子どもも少なくないですが、みんな楽しそうです。川や魚に親しんでもらうことで、河川環境に関心を持つよう育ってもらえればと思います。ただコロナ禍のため、2年続けて観察会などが中止となっていて、子どもたちの笑顔が見られません」と岸本さんも残念そう。

敦賀河川を守る会が発足して8年、河川環境の整備については一定の効果が得られており、放流体験や出前教室に対する小学校の評価も高い。これからも清掃活動や子どもたちへの教育活動を継続し、河川の環境や生態系の保全に努めていくとしている。



6月19日にアユ釣りが解禁となり、筈の川にも待ちわびた人々が訪れた

## 敦賀河川を守る会の活動



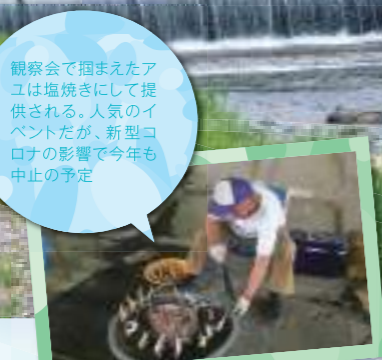
アユの産卵場所を整えるため、固くなった河床を掘り起こす



さかな観察会でアユの掴み取りを楽しむ親子



バケツに入れてもらった体長8~10センチほどの稚アユを放流する小学生たち



観察会で掴まえたアユは塩焼きにして提供される。人気のイベントだが、新型コロナウイルスの影響で今年も中止の予定



春と秋の2回、水生生物調査「生物モニタリング」を実施している



毎年、筈の川流域の鳩原や衣掛橋付近など5箇所で、草刈り作業を行っている